

第 4 5 回 原子力小委員会に対する意見
(サプライチェーンと人材育成について)

令和 7 年 6 月 2 4 日

越智 小枝

産業としての原子力を継続するためには、人材とサプライチェーンの確保が必須であることにつき、経済産業省のお考えに賛同いたします。しかし一方で、その確保の方針につき具体性が著しく欠けている点に懸念を覚えます。

確保すべき人材は物を作る技術者だけではありません。たとえば事故の前の福島第一原子力発電所は、地元の高校生の有力就職先でもありました。現在の経済産業省などの方策を見る限り、「人材育成」は工学系の 4 年生大学生・大学院生の確保に重点を置いているようにも見えます。教育施設に依存するのではなく、就職後に企業が技術修練を行い、安全管理や人間工学的システムを管理する能力のある人間を育てるという責任感の元、地元の雇用をどれだけ増やせるか、という試算もなされるべきであると思います。

同じことがサプライチェーンにも言えます。原子炉にかかわる材料や燃料のサプライだけを考えていては、具体的な需給の脆弱性を十分解析したことにはならないと思います。そういう意味で「需給ギャップの分析」が、現場の作業員の動線に沿ってなされているようには見え難いように思っております。政策立案者の方々は「大所高所から見る」ことを得意としていらっしゃると思いますが、それは論理だけで動かせる大きなモノだけを分析することではないと思います。日本の頭脳である官僚の方々であるからこそ、最も変動制性・複雑性の高いヒト・モノ・情報の流れにつき緻密な分析を行いつつ俯瞰していただければと存じます。

技術的な安全対策がなされたところで人が見えていなければ投資の予見性を高めることはできません。リスクも安全も継続性も、本当の住民と本当の現場を見据え、机上の空論で終わらぬことを願います。